

「県議会への意見」募集結果について

秋田県議会では、議案の審査や政策提言の参考にするため、今年度は5つのテーマについて「県議会への意見」を募集しました。寄せられた御意見は、次のとおりです。

1 募集期間 平成29年7月21日（金）から9月5日（火）まで（当日消印有効）

2 募集結果

- (1) 応募件数： 41件
- (2) 応募者数： 37人（男性22人、女性15人）
- (3) 御意見： 次のとおり
(個人情報を除き、表示形式を揃え、文章は原文のとおり掲載しております。)

テーマ1： サッカースタジアム整備について 【34件】

1-1

サッカースタジアム整備は必要だと思います。

100億かける価値はあるのかという意見もあるかと思いますが、スタジアムができるまでの検討自体に大きな意味があります。

秋田県の政策は、現状を維持する政策に予算が割かれがちですが、この件に関しては未来志向の政策ですし、民間や若者の意見から街づくりの観点まで含めて議論するのは秋田の将来をみつめる格好の好材料です。

民間を巻き込んだ政治的議論というのは、そんなにできるものではありません。

秋田の商業界も自分達の商売に何か生かせないかと、最近沢山の事業主がブラウブリッツに関心をもってきています。

若者も大型スタジアムが建つかどうかとなれば、秋田の将来や政治に関心をもってくれると思います。

経済効果ですが、ブラウブリッツは現在J3ですが、現在でも試合を観に来るために年間500人程来ているといわれています。

県外から誘客する難しさは知られているところですが、今後J3リーグ自体も規模が成長しますし、J2に昇格した際にはもっと沢山のお客さんが県外から来ます。

スタジアムにお金を使うなら、福祉や子育てなどに使えという意見もありますが、具体的にどういふものに使うかという意見はあまり聞きません。

子育てにしても、例えば、子供一人につき10万円を交付すればいいとかそういうことをしても根本的な解決にはならないです。

秋田に若者が多く、生活する場所として住み良い場所であれば福祉にお金をかけなくても万事うまくいくものです。

現在のあきぎんスタジアムは、決して観戦する場所としてはふさわしくありません。

トイレは狭い、芝生で個別座席ではない、照明はパワー不足、設計ミスでメインスタンドは観づらい。

秋田県はもっとしっかりした設備を持つべきです。

あきぎんスタジアムではいずれ観客が頭打ちになるでしょう。

秋田を変える契機として、スタジアムの検討と建設をすすめていけば、秋田は変わるはずで

【秋田市・30代・男性】

1-2

近年の夏の高温化に伴い、サッカーを6月～9月にかけて日中に観戦するのは、選手側、観客側にとって健康上負担が大きく、成績の良しあしに関わらず望ましい状況ではない。

プロ・アマ関わらずに、夜間に試合が開催できるスタジアムを保有することは、必要だと思う。

【県外（宮城県仙台市）・40代・男性】

1-3

秋田市にJ1基準のスタジアムの建設を強く求めます。

今年チームが優勝してもJ2に昇格することはできません。

昇格できていけば、定期的に秋田を訪れる観戦者がいることを考えると、今までの行政が可能性をつぶしていたということです。

魅力あるスタジアムを建設し、秋田のスタジアムは素晴らしい、また行ってみたいと思ってもらえるようなスタジアムを今こそ建設すべきです。

子供達に夢を与えることにもなりますよね。

今のあきぎんスタジアムで3000人以上の観客を集めると事故の可能性もあります。

安全に快適に観戦できるスタジアムを造ってほしい。子供にもお年寄りにも優しいスタジアムを。

【秋田市・40代・男性】

1-4

サッカーだけでの使用を前提としないで「多目的ドーム」の建設をめざすべきです。

サッカーの年間使用は40日弱です。その為だけに100億円以上の税金投入をするべきではない。床をテニスコート、体育館の床、芝生のスライドできる3層構造にする。

収容人員は2万人

【由利本荘市・50代・男性】

1-5

サッカースタジアムの整備は是非やって欲しいです！

出来れば日本代表戦も開催できてJ1にも対応できるようなスタジアムが良いと思います。

(あと、秋田県人の足は圧倒的にマイカーだと思うので、駐車場が1000台以上の広さがあると良いと思います。)

大阪の吹田スタジアムのような設計にすれば費用は抑えられるようなので、参考にしてみたいかでしょうか？https://www.soccer-king.jp/sk_column/article/395072.html

【秋田市・40代・男性】

1-6

個人的には、知事のおっしゃる通り、J1仕様のスタジアムを新設していただきたいです。

ただ、新しくできるまでJ2に上がれるチャンスがあったのにずっとJ3というのも酷な話なので、その間、八橋陸上競技場等を改修してJ2仕様にして、急場をしのいでほしいと思います。

多額のお金が必要なのは、知事の未だ撤回、謝罪されてない上から目線の失言からわかりますが

「みなさんの力を貸していただければ助かります」と、あるべき姿で協力を要請されるなら、喜んで協力させていただきます。
また、今回の災害を受けて、新スタジアムを避難拠点とする考えも一考の価値はあると思います。
【秋田市・30代・男性】

1-7

新設を希望します。

新設する施設は、サッカー用スタジアムだけを整備するのではなく、多様な世代が集う交流拠点となるような空間の整備を希望します。例えば、収益性の高い（多くの利用の見込める）若者に人気のあるスポーツ（スポーツクライミング、スケートボード、人工芝フットサルコート、3on3バスケット等）を楽しめる施設を併設し、施設公園内にウッドチップを敷いたランニングコースを設け、カフェ等も公園内に併設し、多様な世代が集う交流拠点となればと魅力的であると考えます。その運営も従来の指定管理以外の手法も検討するべきと考えます。この他にも活用できるスペースには、商業施設を民間事業者に提案させ、県の費用負担を減らす努力をするべきと考えます。

また、新設にあたっては、平成29年6月にスポーツ庁・経済産業省から出されました「スタジアム・アリーナ改革ガイドブック」にも記載のあるように、民間資金を活用したPPP・PFIの手法活用の検討を行っていただきたいと思います。この他にも内閣府からもPPP・PFIの活用について指針が多く出ているかと思っています。

これまでと同じような公共事業のやり方では、我々若者にとって本当に魅力のある空間にはならないと思っています。是非多様な手法やアイデアを検討していただくよう、よろしく申し上げます。

【秋田市・20代・男性】

1-8

秋田県立中央公園（スポーツゾーン、雄和）にある既存の施設を改修整備して、使用すれば良いと思う http://www.akisouko.com/files/00002486/zoom_kyugi.pdf。

同じ「秋田市」に存在すること、交通の便が良いこと（最寄駅から歩いて行ける、実際AIUの学生は歩いて駅まで行く。空港から近い、高速ICから近い）。

とりわけ受益者が限定的な施設でもあり、何も新設する必要は無いし、八橋にこだわる必要もない。

【横手市・40代・女性】

1-9

県立中央公園の2面ある球技場のうち、手前の一面を改修してはどうか。

駐車場のスペースにメインスタンドを増設。現在の背中合わせのメインスタンドをバックスタンドとして整備し、ゴール裏にもスタンドを増設すれば、横浜の日産スタジアム程度の規模で、良いスタジアムが出来ると思う。

入場券とセットで高速道路の割引などを行えば、県内の比較的遠いところからも観戦しに来る人もいるのではないかと。

駐車場のスペースもあるのだから、今のままの中央公園では、もったいない。

全国的に有名になった国際教養大学のすぐ近くにスタジアムを整備すれば、注目もされやすいかもしれない。

【秋田市・50代・男性】

1-10

国際的な埼玉スタジアムのように、試合には一つの町になるように程よい駅からの距離を上手く、商業施設の並びにして、秋田をピーアール出来るようにして欲しい。

幅広い年齢層の人が、無理なく駅から歩ける事が、新天地の第一条件です。

【秋田市・50代・女性】

1-11

BB秋田が、せっかく頑張っている順位をキープしても、J2に昇格できない状況とは残念ではありません。スタジアムの建設・整備は急務です。

署名が集まっているので、県として建設に早急に着手していただきたい。

建設にあたって、いろいろ調査されてご存知かもしれませんが、提案させてください。

2002年サッカーW杯の試合会場であったカシマサッカースタジアムの改修費用を捻出するため、茨城県はサポーターや県民・様々な企業に寄付をお願いし、一定金額以上を寄付すると名前をいれたタイルをスタジアムの壁面に使用して、寄付金を活用して改修しました。

もう15年以上前のことですが、足を運ぶたびに自分の名前を探したりしてしまいます。

今はスタジアムでの試合以外にも、健康に関するフィットネスクラブや整形外科などスポーツに関するものの中心施設となっています。

ガンバ大阪のホームスタジアムも、一定金額の寄付金でネームプレートがスタジアムのどこかに掲示されています。

ふるさと納税として、福島県はJヴィレッジ再建に取り組んでいて、こちらも一定金額以上を寄付するとネームプレートなどの掲示がされるようです。

なので、一定額を寄付すると、秋田杉などを使用して、寄付された方のネームプレートを掲示するという方法で資金を集めてはいかがでしょうか？

スタジアムだけでは、その後の管理費も捻出できません。

テナント料や施設使用料で維持できるように考えていただけたらと思います。

できることなら、委員会の委員にさせていただきたい。

スポコンのボランティアに登録していて、年に数回ですが、ボランティアでBB秋田のお手伝いもさせていただいています。

どのようにすればいいかわからなかったので今回はメールで意見を述べました。

署名した方に、「お金を払え」みたいな感じの発言がありましたが、自分はその事業に参加したい、それを見に行きたい、県民が足を運びたくなる施設の建設をお願いします。

【秋田市・40代・女性】

1-12

私は2014年に東京からAターンし、2016シーズンからコールリーダー（応援団長）としてブラウブリッツ秋田を応援しております。

今回はアウェイゲームでの応援活動から全国各地のスタジアムを見てきた体験をもとにご提案いたします。

秋田県が目指すべきスタジアムのあり方について、これはもう純粋にピッチで繰り広げられる競技を観客が思う存分に楽しめることを第一前提に、スタジアムに行くことで非日常空間が味わえる、来場者に多幸感を与えられるエンターテインメント性、快適性、利便性を追求したスタジアムでなければいけないと考えております。

プロスポーツを観るためにスタジアムに足を運んでいる人たちは、日々の生活をやりくりしながらお金と時間を捻出して、観戦のためにそれを消費しているわけです。そういった方に消費した以上のモノを還元できなければチームもスタジアムも成り立っていかないとします。

もちろん競技をする側、競技を見る側、双方が幸せになれるスタジアムが理想ではあるのですが、その理想を限りなく実現させようとする中で「では、何が必要となるのか？」を逆算して考えていけば自ずと目指すべきスタジアム像、方向性が見えてくると思います。

なので「新設なのか、既存施設の改修なのか」という二択が前提で物事が進むのは大変危険だと考えております。新設しても観づらいスタジアムではそれこそムダになりますし、改修でも観やすいスタジアムは作れるはずで。

【秋田市・30代・男性】

1-13

スタジアムが一番早く出来る形をお願いしたいです。
何故ならばタイミングと言うものが一番だと思うし、全てが揃ってからでは遅すぎます。

秋田の活性化の為に、県民が年々減って行く中で、他県から呼び込むビジネスでなければ、活性化は難しいと思います。

人がいないんですから！

もし昇格したら、今の倍の、県に一度も秋田に来たことがない選手やサポーターが、秋田という県を知りお金を落として行くんです。

秋田の活性化の為に本当に良いビジネスに繋がる事でしょう。

そして、子供達に今、夢を与えられるものがありますか？

夢を叶えてあげられる環境がありますか？

若い人達が出ていくのは、夢を与えられない、叶えてあげられる環境がないからです。

秋田はがん1位、自殺1位！こんなイメージの県に、誰が魅力を持てるのでしょうか？

これは私達大人の責任です。

今は、チームも結果を出してくれていますし、これから益々サッカー人口は増えます。

その子供達に、是非とも夢を与え、叶えてあげられる環境を急いで作っていただきたいと思います。

秋田のイメージを、県を挙げて変えていただきたいと思います。

【大仙市・50代・女性】

1-14

仕事を定年し、ブラウブリッツの試合は妻と一緒に毎試合楽しみに観戦しています。

サッカーは若者のスポーツと言われますが、秋田の場合は60歳以上のサッカーファンも多く、様々な年齢層の人が和気あいあいと観戦出来る素晴らしい雰囲気があります。

秋田に住んでいると感じませんが、他県に行くとサッカーの影響力や注目度はかなり高いものがあります。

私が、若い頃は野球が一番人気のあるスポーツですが、今では都会ではサッカーをやっている子がほとんどです。

サッカーは対戦するチームのサポーターが遠い場所であっても応援に来る文化があり、それによってサッカーは日本と秋田をつなぐツールになります。

また、世界での注目度は言うに及ばず、3部や2部のチームでもサッカーチームがあるかないかでは、外人と話すときの話しやすさには雲泥の差があります。

年寄りと若者をつなぐ架け橋にもなります。
サッカーは、秋田の人同士をつないだり、秋田と他の地域とつなぐ道具になります。

早急にスタジアムを建設し、地域の活性化や交流人口の拡大に努めるべきです。
この年になっても一試合一試合の勝敗に感動できるのは何より幸せであり、健康的に生活できる秘訣でも有ります。

秋田でも、素晴らしいスタジアムで快適に見たいものです。

現在、ブラウブリッツのスタジアムである「あきぎんスタジアム」は、現在の入場者数ですらも限界だと考えております。

ハーフタイム時のトイレの混雑や、スタンドの傾斜がゆるい等、年寄りや子供には辛い設計です。

特に、足腰が弱い年寄りには、立って観る芝生席は辛く、全席がシートになって、座って休むことができる設備が必要です。

秋田にも、日本に当たり前にあるようなサッカー専用スタジアムを強く希望します。

【由利本荘市・60代・男性】

1-15

スポーツ観戦というと、男性のイメージがまだまだ強いですが、実際には女性の観戦者もかなり多いので、女子トイレの設置数を標準よりも多めにさせていただければと思います。(時間帯によっては込み合いますので)

『女性や親子連れも利用しやすいスタジアム』という視点も考慮していただければと思います。

【秋田市・40代・女性】

1-16

これからの秋田の活性化の為にスタジアムが必要だと思います。スタジアムがあることで子供たちの夢にも繋がっていくと思いますし、県内外からも人を呼ぶ事が出来るのではないのでしょうか。

秋田を元気にしたいです！

【仙北市・50代・女性】

1-17

秋田県といえば、ガン、自殺率一位！と暗いイメージが定着している、おまけに若者は県外へと流出、そんな中プロサッカーチーム、ブラウブリッツ秋田が数年前から芽吹き、今年はJ3で首位となるまで成長している。今まさに、このプロサッカーチームの存在価値をもっと考えてみるべきではなからうか。スタジアム建設となれば、当然冬の雪対策がネックになると思うが、そこはやはり、開閉式のドーム型がスポーツに限らず利用価値は多いにあると思われる。そこに集まる県外からの人の流れ、必然的な観光、宿泊、飲食等今までに無い考え方が必ず出てくるのでは。

この様な事を私達年代がもっと考えて行くことも良い機会ではないかと思えます。

是非、秋田の子供達、私達が誇りに思えるサッカーチームの環境を作ってもらえるよう願います。

【横手市・50代・女性】

1-18

秋田県を賑わす為にも、県外から人を呼び、サッカー観戦と観光をしてもらい、秋田でお金を使ってもらう為にもスタジアム整備は必須だと感じます。

【秋田市・30代・女性】

1-19

秋田に J2 規格を満たすスタジアムを建設する方法を色々と妄想してみましたが、秋田の課題に対する解決策としてスタジアムを利用する、というのが理解を得られ易いと思います。

スタジアム建設署名時に、県庁のスポーツ振興課へ、スタジアム整備より福祉や教育分野にお金を使うべき、と声が寄せられたと魁で読みました。

政府が昨年 6 月に決定した成長戦略「日本再興戦略 2016」において、

スポーツ関連産業の市場規模を平成 27 年の 5 兆 5 千億円から 37 年までに 15 兆円に拡大し、スポーツ産業を基幹産業に成長させるとする国策が始まっています。

秋田の課題に対する解決策としてスポーツを利用すると周知して、県民的合意を作り上げていく必要があるのではないかと思います。

未来投資戦略 2017（全体版） P151 を参照

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/pdf/miraitousi2017_t.pdf >

具体的には観光の振興。

秋田に来る宿泊を伴う観光客の数が観光庁調べ

<http://www.mlit.go.jp/common/001198914.pdf> >

NTT レゾナント社調べで行ったことのない県の 1 位、

<https://ranking.goo.ne.jp/column/1266/> >

秋田は観光が弱い訳ですから、観戦応援にくる県外からの交流人口をアピールしたら良いのではないのでしょうか。

県経済が良くなれば、福祉や教育分野に回せるお金も増えますし。

動画は千葉のフク電アリーナにきたコンサドーレ札幌サポ

<https://youtu.be/UTHwjHnsAWs>

山雅の経済効果 54 億円 J1 で戦った 1 年

<http://www.shinmai.co.jp/soccer/2015/11/54.html> >

工藤県議が秋田中央 IC 付近にスタジアム建設を提案されてましたが、

外旭川イオン構想とあわせ、御所野イオンを閉鎖・移転し

秋田県+秋田市+AEON で秋田中央 IC 付近にスタジアム、とすれば欧州にあるようなショッピングモール併設スタジアムができるのでは??

<https://victorysportsnews.com/articles/4410/original>

【能代市・30代・男性】

1-20

スタジアムは周辺地域を活性化させる機能を持つ施設となることを期待しています。

スタジアムに来て試合を観戦して帰るだけではなく、試合の前後にスタジアム周辺でショッピングや飲食を楽しみ、休日の一日をスタジアム周辺で楽しめるような、総合的なエリアの核としてスタジアムが整備されることを望みます。

アウェイツーリズムによる交流人口の増加もスタジアムの重要な機能のひとつと考えています。

実際にアウェイゲームの応援で複数の県外のスタジアムを訪れた経験をもとに考えると、「土曜日に試合開催地周辺で観光、一泊し、日曜日の試合後に公共交通機関を利用して飛行機・新幹線な

どに乗り継ぎ、当日中に秋田に帰ることができる」という条件に合致する県外スタジアムでの試合には秋田からも多くのサポーターが訪れていたという印象があります。

同様に、秋田でのスタジアム整備においても、飛行機・新幹線との接続次第で、県外から多くの対戦相手チームサポーターに秋田に来ていただけないではないでしょうか。

また、高校生、大学生などの若い世代が気軽にスタジアムを訪れることができるよう、整備においては秋田県内各地からの公共交通機関アクセスにも着目していただきたいと思います。

その意味で、現在の八橋運動公園は空港との間のバスもあり、秋田駅からのバス本数も多く公共交通の観点では比較的恵まれた条件と言えますが、他の場所へのスタジアム新設の場合も同等以上の交通アクセスを確保できる場所を選定していただけたらと思います。

一方、現在の秋田の交通事情を考慮すると収容人数に見合う駐車場の整備は必須ですが、興行開催日以外（特に平日昼間）にも駐車場等が活用されるよう、教育機関やオフィスビルなどのように平日に駐車場等を必要とする施設が周辺にあり、駐車場の共用・活用が図られることも望ましい条件と思います。

スタジアム設備そのものはシンプルな球技場であっても、周囲の環境との調和によって魅力的なホームスタジアムとなるのではないかと思います。

産学官、そして地域の私たちも関わってスタジアムを核とした街づくりを進めていくことができれば、素晴らしいと考えています。

【秋田市・40代・男性】

1-21

私は新設でも改修でも、どちらでも良いです。ただ、ただいち早く今、結果を出してくれている選手たちの為にも1万人収容できるスタジアムが欲しいです。なかには他のクラブから声を掛けられたのに断ってブラウブリッツに残ってくれた選手もいれば、「もう自分は秋田県民ですから」と言ってくれた選手もいます。

今、若い秋田の子が秋田を出ていくのに県外から来てくれた人が『秋田の為に』と頑張っている姿を見て、もう感謝しかありません。

このままブラウブリッツがJ3なら、選手が他のクラブから引き抜かれても仕方ないかなと思います。選手が個人昇格するように応援します。けどJ2、J1にブラウブリッツがいけば秋田県民と一緒に喜びをわかちあえる、もっと県は盛り上がります。J2にいけるのにライセンスが無いためにJ2にいけないのは本当にもったいないことだと思います。

県外に行った県民も、秋田に帰ってくるきっかけにもなると思います。実際、秋田生まれで今も川崎や仙台からブラウブリッツの試合を見にきているサポーターもいます。ブラウブリッツがJ2に行くことで県も盛り上がり人口減少の解決のひとつになると思います。

確かに莫大な費用はかかります。だけどJ2に行くことでアウェイから来たサポーターは今より多くなって商業施設も利用するし経済効果もある、角館や男鹿にも行ってみようってなり観光地も賑わう、若い子たちも県に誇りを持って秋田に残りたい、帰りたいって気持ちになる、プラスの効果が大きいと思います。秋田には美味しいお酒もある、素晴らしい景色もある、秋田の良いところをたくさんの人に知って欲しいです。

【秋田市・30代・女性】

1-22

現在のブラウブリッツ秋田のことだけを考えると今回のスタジアムの件は、ともすれば 2,000 人そこそこしか観客が集まらないスポーツで、その 2,000 人ちょっとのために 100 億もの公費と毎年の維持費を捻出するという箱モノ行政の最たるものに見えがちですが、既に成長過程にあるコンテンツが存在するという点において、いわゆる箱モノ行政とは一線を画していると思います。

そのコンテンツは現在のチーム規模と J3 というランクにいる状態で、チームとしてはプレイヤーから自己実現の場として、試合においては観客の余暇を楽しむ娯楽として、下部組織やスクールにおいてはサッカーをプレーしたい子どもたちにプレーの機会を提供するという意味で、ある程度県民の幸福に寄与しています。

サッカークラブは、世界中にモデルケースがありますから比較的運営ノウハウも揃っており、秋田に合ったチームから学べるので今後についても発展しやすい分野だと思います。

今はまだ小さな規模ですが、今後整備された環境でもっとレベルの高いところに身を置くことで、もっとたくさんの人たちの幸福に寄与するであろうことは容易に予想できます。

この事業は、今現在サッカーが好きな少数のための事業ではなくて、いまだサッカーを通して幸福になっていないすべての人のための事業なんだと捉えられるか、秋田県の視点がどこにあるのかが試されていると思います。

という事を踏まえると、人々が足を運びやすい場所に、サッカーをよく知らない人にもその魅力が伝わるようなスタジアム。地元チームを応援することの楽しさや喜びを感じられるような構造だと良いですね。

観客席から選手が近く、テレビでは見られない選手の表情や息遣いが伝わる。

応援がダイレクトに届けば、選手にとってもやり甲斐のうまれる最高の環境だと思います。

新築であれ既存施設の改修であれ、予算の都合はあれどもこの部分は妥協してはいけないと思います。逆に言えば場所とスタジアムの形状に関してこの内容が担保できるのであれば、新築にこだわる必要もないと思います。

Jリーグの要求する基準さえ満たしていれば…という考えで場当たりの改修を行えば間違いなく失敗するでしょう。現に山形山梨京都広島等、多くの地域でスタジアムの再整備議論が起こっています。京都は新設決定、大阪や北九州ではすでに新しいスタジアムもできております。

数々の失敗例から我々は学ばなければなりません。

最初から何が（今のところサッカーの興味がない人たちも含めて）観客にとっての喜びなのか、サッカーで秋田をどうしたいのか、何のためにスタジアムを整備するのか、そのところがブレないように議論を進めていってもらえればと思います。

【秋田市・40代・男性】

1-23

せっかくの大規模なスタジアム、ここで出来ることが誉で、気軽に近所の人が使用できない感が必要に思います。大規模なスタジアムでの例えば中総体や高総体であれば、東北大会や全国大会へ子どもたちが出場した時に気持ち負けしないと思います。

また、秋田市役所みたいな平凡でどこにもあるような建物ではなく、東北で、全国でここにしかない建物が望ましいです。

外観であれば、インスタ映えするという理由での観光客もあるかと思えます。

賑わいは、市民県民だけでは作れません。

観光客をどうやって来させるか

であればSNSを利用するのがいいかと思えます。

(ある箇所から、奇跡のような一枚の写真が撮れるみたいな)

また、仙台に嵐がコンサートに来た時のような賑わいが欲しいです。

今作っている文化会館が小規模すぎてがっかりですので
全国から人を引き付けるアーティスト、嵐やサザンオールスターズのようなビッグアーティストが
来て、コンサートが出来る会場としてもあるべきではないかと思います。いえ、あって欲しいと思
います。

毎年、そのコンサートを楽しみに来県者が増え、もっと秋田を知ってもらえると思います。
この位でいいかという規模や外観では誰も興味を持ちません。

なんだこれ?!位が、実は一番いいのだと思いますよ。

スタジアムにホテルをつけるとか、小さいながらも遊園地をつけるとか
中高生のデートスポットにも成りえる、一日遊べる施設がいいと思います。

それこそ、ルミエールをくっつけちゃえば?みたいな

クレープ屋やチュロス屋など、若い人が喜ぶ飲食店があればなおいいです

もう、きりたんぼや比内地鶏はいらないです・・・

秋田らしさは駅前にたくさんあるので、県民が遊べて、他県民が「秋田もなかなか都会じゃん」と
思える店舗があるといいです

各地を視察して、勉強して作ってほしい、以上です

【不明・30代・女性】

1-24

スポーツ選手にとって1年は長いものだと思うので、スタジアムは改修で1年でも早くプレー出
来るようにして欲しいと思います。

秋田の子供達に夢を与えてくれるプロスポーツ選手が活躍出来る場所は絶対に必要であり、他県
からも人を呼び込むチャンスでもあると考えます。

【横手市・30代・女性】

1-25

今、選手達は頑張ってくれているので、なるべく早くスタジアムが出来る方法で作って貰いた
いです。

【横手市・50代・女性】

1-26

ただ単に漠然としたJ規格のスタジアム整備は、望みません。

投資と考えてください。

都市計画と秋田の未来を構想して投資してください。

秋田は人口減少も進みますし、経済面でも脆弱な地域です。

人が集まる、留まる魅力と経済の発展、文化の成熟となるきっかけにしてください。

サッカーファンは、優良なスタジアムとその雰囲気意識して足を運びます。

県内や県出身のサポーターやファンであれば、休日を過ごす場所となり、人の交流が生まれる、
文化の成熟する場所でもあります。

そして地元の誇りとなる秋田の象徴になります。

秋田の勝利を歌い喜び、励まし合い、時には共に立ち上がる光景がそこには、生まれます。

県外からも、そのスタジアムを目当てで足を運びます。

資金が必要なのは当然ですが中途半端な建築物では何も残りません。

秋田のために有益な投資をしてください。

スタジアムの良さとなりそうな要望を挙げさせていただきます。

全部包括する事は望みません。

相反するような面も当然でますし、ひとつでも参考にして頂けたらと思います。
秋田の都市計画として、未来構想として
是非スタジアム構想を進めてください。

■スタジアムの構造

- ・スタンドの傾斜を大きくする・・・高さや傾斜があると観客も見やすい。
それが話題性になります。例えば、豊田スタジアムです。
そこに人を呼び込むとそれは、ピッチからも圧倒する、されるような壁となります。
選手をサポートする場面で大きな要素となります。
例えば、ドイツのドルトムントです。
選手からのピッチ目線で映像などをご確認ください。
- ・スタンドの1層構造の部分を広くする・・・応援の雰囲気や1階と2階で分断されません。
例えば、ユアテックスタジアムです。
- ・高齢者などでも観戦しやすい環境・・・エレベーターや広く緩やかな勾配のスロープを設置する。
- ・コンコースをなるべく広めにする（有効活用できるような構造）・・・出店したり、観客の休憩所になります。暑い日は試合前の避暑地になり、雨の日は雨具を着たり、着替えたりします。
- ・トイレを広めに、個数を多めにする・・・サッカーの場合、特にハーフタイムに利用が集中します。行列や人の交錯で時間を費やすとそれだけでスタジアムの印象としてマイナスです。動線を意識した設置をお願いします。
- ・電光掲示板・・・大規模な1面でなくても中規模な2面をコーナー部に対面に設置でもよいかと思えます。本場のドイツでもそういった会場が多かったです。
- ・屋根・・・敷設率がJの基準があるので、それを充たす面もありますが、やはりなるべく広い面積が必要と考えます。屋根のある安心感は集客にも影響します
応援の面でも声や鳴り物の反響があるので、屋根の有無では、雰囲気が断然違います。

■アクセスやロケーション、駐車場の確保

スタジアムの印象や集客に直結します。
秋田市の主要部に建設する場合、駅やバスなど公共施設を利用できること。
例えば、既存の八橋運動公園はロケーションとしては良いと思います。
試合後に、そのまま繁華街に行けるのも重要です。
北九州のミクニスタジアムは、駅から歩いて約10分でした。
試合後、仲間とそのまま小倉駅周辺の繁華街で飲食に出かける事ができます。
お金が動くので経済効果としてでます。
アウェイチームや県外の観客も当然お金を落とします。

一方で、八橋運動公園とした場合、どうしても駐車場の確保は限界があります。
秋田は車社会ですので駐車場は必要になります。
かといって、あまりに郊外にスタジアムを整備しても集客は伸びません。
J2でそういったチームがいくつもありますし、新たに整備計画というようになりかねません。
郊外に作ると、アウェイチームや県外の観客はそのまま帰ります。
繁華街や観光地にもよりません。
スタジアムの移動で終わってしまいます。
当然、経済効果は大きくなりません。
アクセス、ロケーションは十分考慮してください。

■スタジアムを活かしたツーリズム

スタジアムに足を運ぶことは、秋田に足を運ぶ事になります。

例えば、ガイナレ鳥取との試合で、鳥取市に遠征に行くと、鳥取空港では、アニメの名探偵コナンと鳥取砂丘を絡めており、その地域を楽しんだ中で良質なスタジアムの鳥取スタジアムへ向かいます。

鳥取西部の米子方面ではゲゲゲの鬼太郎を絡めた空港、駅、境港市などに足を運んで元日本代表の岡野さんがプロジェクトしたYAJINスタジアムへ向かいます。

同じ過疎地域でありながら、観光に向かわせる環境がありました。

その点、秋田県内は観光地がありながら整ってない、消極的に思えます。

秋田市の核となる誇れる建築物にしてください。そしてツーリズムの礎にしてください。

(まずはアクセス、ロケーションを含めて、スタジアム自体きちんとしたものを整備した上での活用です。)

また、札幌ドームに行く場合ですが北海道ですので千歳空港を利用する場合があります。札幌市と千歳空港の間にはアウトレットがあります。行った先でアウトレットに立ち寄ります。スタジアム整備と併せて、近場にアウトレットの誘致もできないでしょうか。

(複合施設にするかどうかについては、どちらが有効かは、わかりません。

イタリアのトリノでは複合施設の例もあるようです。)

県民も観光客も秋田で休日、週末を過ごす、楽しむことができます。

経済も動きます。

(サッカーの面とは別に、アウトレットは海外の観光客の集客にもつながると考えます)

秋田の発展につながる

秋田のために有益な投資をしてください。

【由利本荘市・40代・男性】

1-27

私はブラウブリッツ秋田のサッカーボランティアをしています。サッカースタジアム整備については自由民主党の工藤議員がサッカースタジアムの最適地は「秋田中央ICを降りノースアジア大学正門前信号の右手に広がる田園地帯(工藤議員案)が最適地ではないか」という一般質問がありますが私はそれに同意しかねます。主な理由は3点あります。

1点目は、整備費がとて大きくなるからです。

買収するのに費用がかかるのに、更に田園地帯にスタジアムを建設するとなると、相当な規模の基礎工事、新規に駐車場を作るなど整備費は圧倒的に高額なものになる事でしょう。

2点目は、道路の渋滞についてです。

スタジアム沿いの道路は、現在片側2車線で秋田中央ICへ向かう分には問題ないでしょう。

しかし、秋田市方面へ向かうとなると問題が発生します。横山金足線とぶつかる城東十字路です。

中央ICから現在の城東十字路へ向かった場合、城東十字路の右左折レーンが少なくスタジアムが整備され現在の交通量以上の車をさばくとなると、ただでさえ渋滞を起こしている横山金足線と共に大渋滞を起こす可能性があります。

そして、その渋滞により関係のない方が巻き込まれ、ブラウブリッツ秋田自体のイメージダウンになるのではと危惧しております。

3点目は、経済効果についてです。

J2、J1に昇格するにつれサポーターの数が増加し、時にアウェイサポーターだけで5000人以上、全て併せて1試合1万人を超える観客も想定でき相当な経済効果になると思います。

そのときに期待するのが秋田駅や川反などの市街地で宿泊や飲食などの経済効果だと思っています。

しかし、前項で述べたような渋滞が発生してしまうと、どうなるでしょうか。観客は、渋滞する秋田駅方面を嫌い、そのまま秋田中央ICや広域農道を通り帰宅する。秋田駅方面へ向かったとしても渋滞で市街地に着いたとしても時間が無く飲食店に立ち寄って打ち上げもできないなど、折角の経済効果をみすみす逃す事になりかねません。

以上の事から、私は、工藤議員の案については、スタジアム不的確地とみなし反対します。ここまで反対意見を長々と書いてきましたが私の考えるスタジアム候補地を挙げていきたいと思えます。

私が一番の最適地だと考えるのは、現在の八橋球技場とスペースプロジェクトドリームフィールドの敷地です。

先ほどの反対案を基に比較してみると、まずは整備費ですが、建物の取り壊しはあり、費用は掛かりますが、買収が必要なく八橋地区の地盤も強固な為、基礎工事も安くすみます。

なおかつ、駐車場の整備も休日に空く県庁や市役所、裁判所などの官庁街の駐車場を利用し、最小限の整備で留めることで、トータルではこちらの方が安く済むはずで。

次に渋滞についてですが、市街地ではありますが山王大通りは片側3車線、その他に新国道や国道7号線、国道13号線、けやき通りなど大きい道路があり、それらに交わる山王十字路や臨海十字路などの交差点の容量もあります。

更に、官庁街の駐車場も利用することで、駐車する車が一カ所に集中しない。

周辺にホテルが多くバスもかなりの頻度で走っており、本来自家用車を利用する人が、徒歩や公共交通機関に流れるなど渋滞対策でもこちらに分があります。

そして一番大きいのが経済効果だと思います。

目の前が、八橋の飲食店街なのはもちろん、繁華街川反にもバス1本、または歩きでも行け、なおかつ宿泊施設も周辺に充実しているなど、工藤議員案に比べて経済効果は億単位で違ってくると思えます。

サッカーコートとして利用頻度が高いスペースプロジェクトドリームフィールドなどが、なくなる等問題点はありますが、私はトータルで考えたときに八橋が最適地だと思います。

そして候補の2カ所目ですが、これはスタジアム検討委員会内でも出ないだろうと思えますが、土崎にある貨物駅の秋田港駅北側、フェリーターミナル近くの大規模太陽光発電施設です。

理由としては、アウェイサポーターが多数来秋しても、たびたびホテル不足に見舞われる秋田市中心部だけでなく、宿泊施設が多い男鹿方面にもアクセスしやすいですし、何より県が進める秋田港駅の有効活用として試合日に観客輸送に秋田駅を結ぶ列車を運行すれば、県が目指す秋田港活性化プロジェクトのひとつである定期旅客列車の運行の可能性も広がると思えます。

大変長くなりましたがスタジアム整備の意見は以上になります。

ご検討、ご検証よろしくお願いたします。

【南秋田郡八郎潟町・不明・男性】

1-28

少子化、高齢化、人口減少、ガン死亡率の高さ、自殺率の高さなど、様々な問題を抱えている秋田県です。100年後には消滅している可能性が高いとも言われています。だから必要ないという意見もあるかもしれませんが、私はだからこそ必要と考えます。100年後、私はおそらく生きていません。けれども、生まれ育った秋田県が消滅するのは嫌です。消滅させてはいけません。

秋田県に人を呼び込む為にも、秋田県に若い人を止める為にも、スタジアムは必要です。ご存知かとは思いますが、プロサッカーやラグビーの試合が、時期によっては毎週行われるスタジアムには、ホームのサポーター、ファンだけでなく、アウェイからもサポーター、ファンがやって来ます。

チームが強くなり、スタジアムが整備され、リーグのカテゴリーが上がっていくと、アウェイから来る人の数は膨れ上がります。サッカーやラグビーを今やっている子どもたちにも、いい影響があるでしょう。現に、今サッカーやラグビーの試合を見にやって来る子どもたちの目は輝いていま

すよ。いつか自分もここに立ちたいと思う子どもたちは少なくないと思います。また試合観戦をしている高齢の方も多く、サッカーやラグビーを見に来ること、そこでサポーター、ファン同士交流することが楽しみだそうです。私の母は70代ですが、試合が行われる週末を楽しみにしています。生き甲斐だそうです。

サッカー、ラグビーのためだけではなく、トレーニングルームやカフェなどを併設して、私たち一般の県民も利用できるようにしたり、コンコースを解放して天気の悪い日や冬にランニングやウォーキングできるようにしたら、健康寿命を伸ばすことにも繋がると思います。

スタジアムを整備するには、莫大な経費がかかります。維持費もかかります。人口が減るから、高齢化だからやらないのではなく、人口を減らさない為に、高齢化が進んでも健康に人生を送れる為に、整備して欲しいと思います。

「スポーツ立県」というのは、そういうことだと考えます。

【由利本荘市・40代・女性】

1-29

現役選手が1日でも早く活躍出来るように早くして欲しい。未来の子供達に夢を与える為には大人がどれだけ親身になって取り組んでくれるかだと思う。子供達は大人の行動を良く見ている。

いつやるの、今でしょ！

【仙北郡美郷町・40代・女性】

1-30

初めまして。

私は15まで秋田で育ちその後上京し今も東京在住の者です。

私はJ1リーグ柏レイソルのサポーターとして週末はJリーグを観戦しておりますが、地元ブラウブリッツ秋田のスタジアム問題について、秋田を離れ今は専用スタジアムを保有する柏レイソルサポーターをしている自分だからこそ伝えられるご意見を伝えたいと思いついて書かせて頂きます。

まず、ブラウブリッツ秋田は現在J3で首位を走っておりますが2017シーズンでのJ2昇格はスタジアム規定により望めない現状です。

サッカーに興味を持たれない方からすれば、ブラウブリッツ秋田が頑張っているのは知っているけれども、J3でもいいんじゃないか、またはJ2に行くためにわざわざ税金でスタジアムを建設する必要はないのではないかと考える方が県民にも、また行政の方にもいるのではないのでしょうか。

しかし、J2そしてJ1へ昇格すると県民のサッカーに対する意識が変わると思います。

J1、J2のサポーターはスタジアムが良いアウェイ遠征は好んで行きますし、秋田の立地上殆どのアウェイサポーターは宿泊や旅行も兼ねて遠征を楽しみにきます。

サッカーを通して、秋田の良さを知ってもらえる、秋田にまた来たいと思ってもらえます。

またJ2、J1には普段サッカーを見ない人もしくはJリーグは見ないけれど代表戦は見る人にとっても知っている選手が数多くいます。

各国の代表選手もおり、また熱狂的なサポーターもいる…そんなチームにおらがチームのブラウブリッツ秋田が勝つとなれば秋田にとってこれ以上ない楽しさをもたらしてくれます。

私は秋田を離れても、秋田のサッカーには思い入れがあり、スポーツニュースや高校サッカーなどでは足を運び観戦に行きましたが、現状秋田のサッカーは全国でも低いレベルとしか言えません。

ブラウブリッツ秋田を機に秋田のサッカーも変える、またブラウブリッツ秋田を機に秋田を盛り上げる、秋田に住む人たちの誇りになれるサッカーをクラブはしてると思います。

秋田には他にも数多くの問題があり、スタジアムだけに行政のお金をかけるのは厳しいことも理

解はしています。

しかし、未来の秋田のためにブラウブリッツ秋田を通して、秋田の活性化に貢献して頂けるよう拙いながらご意見させていただきます。

【県外（東京都）・20代・男性】

1-31

仮にあきぎんスタジアムを改修する場合、十分な台数の駐車場を新設する必要がありますが、現実的には場所の確保が難しいのではないかと思います。

旧秋田空港跡地であれば、大規模なスタジアムと駐車場の新設が可能で、しかも国道7号線に近いのでアクセスしやすいですし、立ち並ぶ風力発電機と日本海、雄物川が眺められ、この先何十年も秋田県民に愛される施設になるのではないのでしょうか？更に秋田大橋の辺りとスタジアムとを結ぶ小型フェリーの航路ができれば、JRを利用して県外から訪れるサポーターにも喜ばれるはずですよ。

ご検討の程、よろしく申し上げます。

【秋田市・20代・男性】

1-32

サッカースタジアムの地下に北朝鮮のミサイルに対する脅威を考慮し、核シェルター機能を持たせては如何でしょうか？先日の緊急アラートで地下に避難を呼びかけていたが、秋田市に大きな地下街は無い。せつかく整備するのであれば、このような機能を検討しても良いのでは。そうすれば少なくとも秋田市民からの理解は得られると思う。

【大仙市・50代・男性】

1-33

J2規格のスタジアムを建設しブラウブリッツ秋田がJ2昇格という事になれば、秋田への観光客を呼び込むことにもなると思います。秋田県民としても、秋田を心から誇りに思い、郷土愛を育むコンテンツとして非常に有効だと思います。

秋田は少子高齢化だからと内向きになりがちですが、スタジアムが出来、J2への昇格と言う夢と希望と誇りを持って暮らして行ける様になると思います。

必ずしも新設にこだわる訳ではありません。

将来J1規格への改修可能性を残したスタジアムにして頂きたいです。

また、県外からのお客様を呼びたいとなればなるべく秋田駅からのアクセスが良い方がbetterかと思えます。

出来る限り、迅速なる対応を望みます。

尚、蛇足ではございますが、ブラウブリッツのサポーターは「大いなる秋田」という大きな横断幕を持って全国で応援しています。また、試合前に「大いなる秋田」を歌い、勝った時は、試合後に勝利の「大いなる秋田」を朗々と秋銀スタジアム初め各地のスタジアムで歌い上げます。

ブラウブリッツ秋田のサポーターは、秋田愛に溢れています。

【大仙市・50代・女性】

1-34

既に全国にはJ1、J2を経験したクラブは40クラブ以上ある。

つまり全国40以上の地域には、秋田県内のどのスタジアムよりも高水準のスタジアムが既にありということ。

それを踏まえて、全国の地域と戦えるのかということ。

それはスポーツのみならず、地域の活性化、交流人口の増加、賑わい創出、全てにつながって

る。

ハコモノだからダメ、サッカー見ないから要らないとかではなく、広い視点でスタジアム整備に取り組んでほしい。

【秋田市・30代・男性】

テーマ2：プロスポーツへの支援のあり方について 【3件】

2-1

秋田ノーザンハピネッツ支援に絞り意見いたします。

秋田の課題に対する解決策として秋田ノーザンハピネッツを利用する、とアピールすることがプロスポーツ支援に理解を得られ易いと思います。

秋田市が抱える積年の課題「中心市街地活性化」に対するソリューションとして水野晴夫監修の映画館が売りのアルヴェ、美術館が売りのエリアなかいちを建設しましたが中心部活性化を実現することができなかったのは、コンテンツとして弱かったのが理由です。

秋田15年ぶり上昇 東通と手形の住宅2地点 平均は12年連続最下位

[＜https://mainichi.jp/articles/20170322/ddl/k05/020/335000c＞](https://mainichi.jp/articles/20170322/ddl/k05/020/335000c)

本県路線価下げ幅、3年連続全国最大 商業地需要、依然低迷

[＜http://www.sakigake.jp/news/article/20160702AK0002/＞](http://www.sakigake.jp/news/article/20160702AK0002/)

中心部活性化、喫緊の課題で色々と対策が検討されています。

秋田駅前、対面通行検討へ 県、年度内に報告書

[＜http://www.sakigake.jp/news/article/20170624AK0005/＞](http://www.sakigake.jp/news/article/20170624AK0005/)

駅周辺に人が来ないことによって、商業地としての価値が低下する一方だから投資も集まらない状態ですが、駅周辺でBリーグの試合を開催して、駅前に人が集まる構造を作り上げては如何でしょうか？

また、Bリーグの試合に限らず多目的アリーナにして、コンサートや学会・展示会を誘致し更に稼働率をあげることが可能ではないでしょうか？

過去7季におけるハピネッツの観客動員を考慮し、駅周辺に1万人規模のアリーナを建設し、ハピネッツの試合を開催する事によって、中心部に人が集まる構造を構築した場合、ハピネッツは人気がある、という状況を維持することが、秋田県と秋田市の利益になります。

アリーナで赤字が発生したとしても、アリーナがトリガーとなって地価が上昇し、固定資産税の税収増、駅周辺の店舗に人が集まるようになり、法人税の税収増を見込めるかもしれない。

これにより秋田県秋田市、あわよくばJRを利害を共有するステークホルダーにする事が可能。

マイカー文化から、JRや中央交通など、公共手段を利用する文化を形成する契機になるかもしれない。

政府が昨年6月に決定した成長戦略「日本再興戦略2016」において、

スポーツ関連産業の市場規模を平成27年の5兆5千億円から37年までに15兆円に拡大し、スポーツ産業を基幹産業に成長させるとする国策が始まっています。

Bリーグに限らないが、スポーツ産業は、政府のバックアップもある極めて成長性のある分野。

政府においても、ローカルアベノミクスの一環として、スポーツによる地域活性化を目玉の一つにあげており、安倍総理も先日の未来投資会議の場でバスケットボールについて触れた上で、スポーツアリーナの取り組みを後押しするとの発言があった。

平成29年3月24日 第6回未来投資会議

http://www.kantei.go.jp/jp/97_abe/actions/201703/24mirai_toshi.html

未来投資戦略 2017（全体版） P151 を参照

< http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/pdf/miraitousi2017_t.pdf >

DeNA 球団の前社長が B リーグのチームを 50 億で買収する、mixi が B リーグに参加するとニュースがあります。

秋田県外から投資を呼び込む機会でもありますので、秋田の課題に対する解決策としてスポーツを利用すると周知して、プロスポーツ支援の県民的合意を、作り上げていく必要があるのではないかと思います。

DeNA 前球団社長・池田純氏、B リーグ川崎を友好的買収へ！

< <http://www.sanspo.com/sports/news/20170817/bsk17081705050001-n1.html> >

ミクシィ XFLAGTM スタジオと B.LEAGUE で観客動員数 1 位を誇るプロバスケットボールチーム「千葉ジェッツふなばし」がパートナーシップ契約を締結

< <https://mixi.co.jp/press/2017/0829/16606/> >

【能代市・30代・男性】

2-2

プロスポーツに対する行政による支援について、
競技団体やクラブなどからの一方的な支援要請を受け入れるのではなく、
Win-Win の関係を作り納税者、地域住民にとって納得のいく拠出であることが重要と考えます。

秋田はプロスポーツチームの存在をもっと活用できる余地があると感じています。

サッカーやバスケットボールの試合においては、ホームゲームにおいても、アウェイゲームにおいては特に、秋田側応援席には秋田のチームを応援するために秋田県外から来場する サポーター・ブースターが多く見受けられます。

そういった方々の中には、秋田出身の方もいれば、秋田にはそれまで全く縁がなかったけれどもスポーツを通して秋田に興味を持ち、「秋田」を応援してくださっている方もいます。

いずれも現在は秋田に住んでいなくとも、秋田に対する強い愛着を感じているという点で潜在的な A ターン候補者と言えるのではないのでしょうか。

アウェイゲームの秋田側応援席ゲートでの A ターン情報提供などもひとつのアイデアです。

また、アウェイツーリズムを活用した観光流入人口の増加も、より能動的に実現可能と考えます。

例えば、多くのサポーター・ブースターを擁するクラブと対戦する秋田ホームゲームに際しては秋田のクラブ経由で対戦相手クラブによる秋田への応援ツアーを誘致するなどの施策はどうでしょうか。

プロスポーツを一方的に「支援」するのではなく、地域の資源として「投資」し「活用」していく、そのような取り組みを期待します。

【秋田市・40代・男性】

2-3

私はブラウブリッツ秋田のサポーターです。

秋田県は、大きな企業も極めて少なく、

今後の資金アップを図るにしても中小のスポンサーを幾ら集められるかにかかってきます。

そういった団体、企業に御賛同頂くには、行政がクラブと組んで秋田の存在そのものである形式を望みます。

クラブとの活動を通じ、サポーターも県民歌を歌い、【大いなる秋田】という大横断幕を全国で掲

げて秋田をアピールしてきました。

ブラウブリッツ秋田は、秋田の文化、歴史、ライフワーク、コミュニティーそのものです。これからは、経済の一端を担うポテンシャルがあります。

財産になります。

遠征先の首都圏の試合では、秋田県内のサポーターだけでなく、秋田出身者が集まります。

年々その人数は増えています。

ブラウブリッツ秋田をきっかけに、何年も秋田に帰ってこなかった方々が年に何回も秋田に戻ってきていたりもします。

ブラウブリッツ秋田は、秋田出身者のふるさととのつながりです。

アイデンティティです。

巨額でなくても、継続的なクラブ支援をどうかよろしくお願いします。

【由利本荘市・40代・男性】

テーマ3：クマ対策について 【1件】

3-1 クマ対策の提案

(1) 短期的に

ALSOKなど警備保障会社を利用して、早期に大幅なクマの駆除を行う。また、同時に猟友会に駆除を依頼し、捕獲したクマを有料で買い取る。(例えば10万円)。

(2) 長期的に

早期に有害駆除の許可を市町村に移行するとともに、県も駆除に対し深く関与する。

また、狩猟者を消防署員と同じように考えて増加を図る。

(3) 青森県でもクマに襲われ県民が怪我をしており、近県とも連絡をとり対策を立てる。

動物保護の立場から慎重な対応が考えられることから、被害の一番大きい当県がリードする。

1 初めに

私は専門家でないが、旧鷹巣町の分校のあった山村に育ち、その後、社会人として銀行に勤務し、現在は秋田市の住宅地に居住しているが、生れ育った故郷が基本にあり山間部などの村落の将来に強い関心を持っている。

2 現状認識

(1) 昨年は鹿角市でクマによる4名の死者を出したにも関わらず、その後もクマによる死傷事件が発生しており、危機感を感じている。

県は、県内のクマの生息数が800頭を下回らないことを基本としているようであるが、昨年は駆除数が過去最高の476頭となって、その後猟友会に自粛の要請をするなど駆除に及び腰となっているように思われる。ところで、私は行政が現状の個体数を1000頭程度と想定しているのは大きな誤りであると考え。第一、歴史的にこんなにまでクマを目にすることはなかったのだ。クマの個体数は県の推計の数倍は確実であろう。

(2) いかなる動物も天敵と餌の量によってバランスが保持されるものと考え、クマにとって一番の天敵であるマタギが少なくなり、一定の餌さえ確保されると増加し、個体数が一定のラインを超えると爆発的に増殖するものとみられる。現在は、自然が支えられる個体数をはるかに超過し、餌確保のため、クマは異常な行動をとっているのではないのか。

(3) 専門家、行政関係者の見方、考え方はいずれも人間に問題があるとしており、また、考え方が短期的であることに異論がある。

人間が安易に山に入ることが問題で山に入らないことが解決策だという。とんでもない考え方である。クマは公園など人間が利用するために設置した場所に出ている。横手公園、秋田市の小泉瀧公園、伊勢堂岱遺跡などにクマが出て、一時的に閉鎖に追い込まれている。特に衝撃的なのは、7月14日に北秋田市で全国史跡整備市町村協議会東北地区協議会の現地視察を控え、クマ対策として市や県の職員4人で爆竹を鳴らしながら伊勢堂岱遺跡の中を巡回していたが、行政のプロが複数で十分注意し

ていたにも関わらず、職員の男性が襲われていることである。また、この時にその状況を見ていた女子職員はその状況を、クマが男性と数メートルの距離で向かい合い、その直後にクマが襲いかかった。男性は、頭を抱えてうずくまったが、クマは馬乗りになって両手を交互に使って頭や腕を引っかくようにして攻撃していたと克明に述べている。これまで、クマ対策として、複数で歩くこと、音を発すること、クマに出くわしたら静かに向かい合うことなどが言われてきたが、多くが無力なことを示している。

3 地域創生、観光振興との関連

(1) 学童など子供対策

クマは山に現れているのではない。一番の心配は子供達である。各地の小学校、中学校の敷地内（8.15 角館小、8.14 雄和中、8.9 五城日第一中）にも多く出現しており、このままでは、近い将来子供たちが襲われる危険性が極めて高いと言わざるを得ない。子供が襲われるとクマに対する県民の見方は大きく変化し、厳しい批判が起こる可能性がある。その前に対応が必要である。

(2) 子供の将来

8月10日に鹿角市八幡平で女性（82）がクマに襲われ頭や左腕を負傷したが、自宅に戻った女性を見たひ孫の4年生の児童は、「頭が血まみれになっていて、びっくりした」と言っている。地域の子供にとっても衝撃は大きい。

また、児童のクマ対策として各地小中学校でクマから身を守るための講習会が開催されている。

そのこと自体を否定するものではないが、「地面にうずくまり、両手で頭を守ること」などと具体的に教えられた児童は、将来、クマの多く生息する地元に残る気がするであろうか。

私は、将来の地域創生に大きなダメージとなることを心配している。

(3) 観光産業へのダメージ

昨年9月初めには、田沢湖玉川温泉敷地内にクマが連日のように現れ、外出には注意をするよう呼び掛けた。今年もこれからは紅葉の本番であるが、観光地でのクマによる被害のないことを願っている。宿泊地近くの散歩にも注意を促すような現状は、なんとも情けない。

そもそも当県の魅力は大きな自然であり、その自然を存分に味わってもらうことがなによりセールスポイントのはずである。また、万が一、観光客がクマに襲われるようなことになり全国ニュースとなったら観光に対するダメージは測りしれない。産業振興の柱である観光産業が危機でないのか。

4 クマとの接触

(1) どのような時にクマに出くわしているのか。山でも事故は発生しているものの、それ以外にも多く発生していることを注目すべきである。8月17日に秋田市下北手の市道でサイクリングしていた男性（49）がクマに襲われ左足に裂傷を負った。

(2) クマと車との衝突

各地でクマと車が衝突している。8月7日と15日に、ニツ井の国道7号線、8月28日に、小坂町の東北自動車道で衝突している。また、大館市の国道7号線では40代の男性の遅転するオートバイと衝突している。その他にも衝突事故は多く発生しており、9月6日現在でクマと車の衝突事故は26件に達している。異常である。

(3) 秋田新幹線と衝突

中でも衝撃的なのは、8月14日にJR田沢湖線で東京発秋田行きの新幹線がクマをはねて、緊急停止したことである。秋田県内では、毎日のクマのニュースに慣らされているため、大きな話題にはならないが、観光客などは大きな衝撃を受けたことと思う。一言で言えば、「秋田にはクマがウヨウヨいる」ということでないか。対応策に猶予はない。

5 クマの生息エリア

(1) 秋田県知事はクマ対策の有効策は、「何よりも入山自粛が被害防止につながる」と強調しているが、到底同意できない。現状認識で述べてきたが、クマが人間の生活圏に入り込んできているのである。

秋田市でも天徳寺山の麓にある山崎団地にクマが現れ、町内に立て看板が立てられている。

太平山リゾート公園に向かう県道15号線に隣接する添川長田の住宅前には7月9日にクマ

が現れたことから、住宅前に「熊出没につき注意」の看板が設置された。山に入らなくても方々にクマが現れており、「入山自粛」では対応できない現状である。

- (2) 天徳寺の近く、桜中近く、御所野、金足、手形などにクマが現れているが、昨年太平山中岳に登山して秋田市を望み、市街地はほんの一部であり、ほとんどが緑の木々に覆われ、まさに秋田市は太平山の山麓だと認識し、クマが市街地近くまで出てくることを納得した。

クマが求めるなら緑の森を通して、悠々と市街地に到達できるのである。深い山に入らなくてもクマと接触するのは必然である。これが県都秋田市の現状であり、他の中山間地域については言うまでもない。

6 人間の制約

- (1) 私は、秋田市山内（秋田東病院近く）に家庭菜園があり、クマに注意の看板を見ながら度々訪れる。この地域には太平山リゾート公園があり、秋田市の太平山自然学習センター「まんならめ」、クアドームザ・ブーンなど児童や市民が利用する施設が多数存在する。このようなエリアが「クマに注意」のエリアになっていることを再確認されたい。

- (2) 故郷の村落では、90代の女性が40年以上自分の慣れ親しんだ畑に一輪車を押して通うのが日課であり、依然元気である。私の畑の近くでも80代の男性が菜園に頻繁に通っており、よく会話をする。これらは経済的な理由や、趣味という域を超えて生きている証ともいえるもので、単に危険だから止めるべきというのはあまりに酷なことと思う。

タケノコ採りも同じで、県内の多くの地域では何十年、何百年とタケノコを採り、料理して美味しく食べてきたもので、簡単に危険だから止めるべきというのには賛成できない。

私の故郷の集落は、誕生して400年以上になるが、幼少期からクマが危険だとの話は聞いたことがない。県外生まれの妻は、訪れる度にクマが怖いというが、ここはクマが現れることがないと主張し、毎年のように10歳以下の孫4人を連れて家族10人でタケノコを採り、昼は野原に車座になって食事を摂るのが恒例であった。今年はどうとう孫を連れていくことを断念した。最近帰って聞いたところ、集落内でクマ2頭が「おり」で捕獲されたと聞く。なんとも腹立たしい。なぜこんなにもクマに生活が制約されなければならないのか。

- (3) なるほど動物保護は大切であろう。しかし、人間の生命が脅かされても守らなければならないものであろうか。クマが500頭に減じられればどんな不都合が発生するのか。

そもそも、現在の動物の動向は全体として異常ではないのか。私が故郷鷹巣に往復した時には道路上に死んだ狸3匹を目にした。また、孫を自宅に送り届ける途中の夕方、秋田市泉中央の泉中学校まで数軒の地点でカモシカを見掛け、数日後には、近くに新築したばかりの孫の自宅前にもカモシカが現れ家族は驚いた。カモシカが、泉中央に現れるためには少なくとも信号を10か所ぐらい渡ったのでないか。自然豊かで秋田はいいねと笑えない状況でないのか。

7 意見

- (1) 専門家、行政の見方は、ブナの実が豊富で今年は小熊が多くなった、餌が不作なためクマが里に下りるようになったなど、短期的な見方を目にするがこれには同意できない。

今年多くなった子グマは、成獣となって成長するのであって、数年で減少するものではない。

里山の人口減少が、クマの発生の主因とも言われるが、人口減少も里山の衰退も今後とも長期的に続くことは確実である。対応策は長期的に対応すべきである。しかし、対応は急がなければならない。

- (2) 県には、自然保護課があり動物の保護対策はあるものの、害獣に対する考えが弱いのでないか。

佐竹知事は一般質問で「何よりも入山自粛が被害防止につながる」と強調した。全く事実認識が異なる。被害を受けた事案をよく検討してもらいたい。死亡はしていないものの、被害は農作業中、新聞配達中、朝の運動中などに発生しており、そして、北秋田市長も「市内のどこにでもクマは出没する可能性はある」と言っているではないか。

動物保護と言えば大変耳触りがよくなかなか反論できない。その基本のもとに多くの人々が恐怖を覚え、行動を制約されている。中でも中山間地域、山間地の住人にとっては厳しい問題で、食害にあい、自由を奪われ、生きがいも奪われている。動物保護とはそれほど優先されなければならないものか。

- (3) 現在の行政の主たる対策は、「クマに注意」の立て看板と、おりを設置することが主たる対策のように見えるが、もっと、強力な対策に軸足を移すべきである。猟友会と相談し、捕獲したクマを一

定の料金で買い取るなどの対策も考えられよう。長期的な対策に時間を要するというならば、当面の対策として、魁紙でALSOKの青山社長から説明があったように警備会社に捕獲を依頼することも検討すべきである。

- (4) 動物を殺処分することには、大きな壁があることは理解できる。ここで、昨年魁紙が特集した関係者の意見を確認し考えてみる。特集した中でも、厳しい意見では、秋田白神ガイド協会会長の斎藤栄佐美氏は、環境省が発行した資料には「本来クマは人を避け、森の奥に生息している」と書かれているが、この見解は現実とずれていると述べ、更には境界域のやぶを刈り払っても、電気柵を付けても、クマはうまいものを知った以上、人間の生活圏に侵入し続ける。対策を講じなければ、近い将来クマの侵入を防ぐために家に鉄格子を付けなければならない事態になると考えると述べている。最もクマに近い環境にある方の意見である。

また、鹿角市農林課職員の青山真女史は、「今回の死亡事故で、意識がガラッと変わった。自然の中での存在だから、人への害があってもある程度仕方がないという思いがどこかにありました。それが、守るためには対策を打たないといけないという風に変わった。例えば、通学路にクマが出て、子供が学校に通えなくなるような状況のときには、申し訳ないけど捕らえざるを得ないと思う」と述べている。

しかし、こんな意見もある。クマに襲われて夫を亡くした高瀬テルエさんは、「山のお陰で現在がある。だからクマばかり悪いとは言えない。クマも命をもらってこの世で生きねばならない。最後には、運命だと思うしかない。クマも真剣だ。恨む気なんてないですよ」と述べている。

この意見は山間部で生活する人の危険に対する覚悟を示しているとも受け取れるのではないかと。日頃から命を懸けて生活しているのである。

こんなにまで意見は分かかれ、難しい課題である。

しかし、私は思う。いろいろな議論があってはよいが、動物が人間を襲い死亡させるようなことが絶対にあってはならない。死傷事故ゼロを目標としてもらいたい。

そのためには何でもやることである。(添付資料 省略)

【秋田市・70代・男性】

テーマ4：奥羽・羽越新幹線整備構想について【3件】

4-1

日本全体で考えたとき、新幹線は太平洋側ルートと日本海側ルートをつなぎこむことにより、ヒト、モノ、カネの動きが良くなってくると考える。

太平洋側と日本海側双方をラダー的に結び付ける事により、災害時での寸断があった時、迂回が可能となり、より新幹線への安心と信頼性が向上されると考える。

特に秋田は、豪雪と既存線路により災害に弱い設備となっているため、今回の水害においても、新幹線が停止せざるを得ない状況となった。

ラダーネット新幹線とし、新潟～大宮 山形～福島 秋田～盛岡のラダーにより、一部の区間が停止しても、迂回の確保が可能となり、災害時の交通の確保が図られると考える。

【秋田市・60代・男性】

※ラダー（英 ladder）：はしご

4-2

秋田県に高速鉄道が走るのには喜ばしいことではあるが、秋田県の実情から踏まえれば問題点の方が多く、賛成し難い。

人口減少の中での建設費負担、企業の支社等の県外への流出、秋田県が通過地点となってしまう宿泊する観光客の減少、在来線と別の場所に駅ができることに伴う既存市街地の衰退や二次交通の確保等が課題になると考えるが、クリアできるか、これらを上回る利益がもたらされるのか。

先に新幹線が開業している岩手県や青森県等では、並行在来線が第3セクター化され、通学定期券の値上がりや、同一県内での移動に新幹線効果が波及しないなど、沿線住民が不利益を被っている事

例もある。今、鉄道を使っている人にも配慮してほしい。

高速鉄道整備については反対しない。自家用車がなくても早く安全に移動できる、公共交通機関、特に鉄道の高速化と安定性・信頼性向上には県も積極的に関わって進めてほしい。

奥羽・羽越ルートの新幹線にこだわらず、秋田以南の奥羽本線（奥羽南線）への特急列車等快適な列車の運行、羽越本線の冬期運転見合わせを減らす強風対策、秋田新幹線の一部区間を線形改良する高速化等を推進したほうが効果が大いのではないかと。

羽越本線は、秋田新幹線不通時の対首都圏の補完経路や貨物輸送としても重要であり、もっと重視されるべきであるし、一定の需要がある対仙台の移動や仙北市への観光客の足としては、奥羽・羽越ルートよりも秋田新幹線経路が現実的である。

新幹線を一から整備するよりも、既存路線を有効活用して実現できることは多いと思う。

【秋田市・40代・男性】

4-3

個人的になかなか話が進まずもどかしい気持ちになっている課題で、東京から秋田に観光客を多数呼びたいとなると絶対必要だと思います。東京の人は、よほどの事がないと秋田に行かないです。東京という土俵で戦うとなると秋田は圧倒的にアクセス面と交通費の利便性で負けてしまい、選択肢として先に消されてしまうからです。秋田(所要時間3時間30分台)が競うのは青森(新青森、同3時間10分台)や新潟(同2時間台)、更には北陸新幹線が開業した金沢(同2時間30分台)や富山(同2時間台)などです。こういった都市と観光客を奪い合わないといけないのです。東京の人に秋田は金沢よりおすすめだと(観光も含め)心の底から言えますか？また東京の人もそう思いますか？秋田にとってまずこの所要時間の壁を短くする事がとても重要ではないでしょうか。

そこで私が提案する案は、秋田～大曲の奥羽新幹線(フル新幹線)の部分先行開業です。

理由は3点あります。

ひとつは、それで成功した新幹線の例があるからです。

九州新幹線は、末端区間の新八代～鹿児島中央間が先に開業し九州新幹線の全線開業にこぎ着けました。先行開業した裏には予算が巨額で一括には建設できなかったという理由もありますが、乗客が多い博多～熊本を先に開業されてしまうと末端区間である鹿児島部分は建設されないのではないかとという鹿児島県の危機感もありました。

私たちが、まずは部分開業でいいから工事に着手してほしいと、具体的に国に請願することで、実現性が高まるのではないのでしょうか。

2点目は、短い区間の割に時間短縮効果が大きいからです。今現在秋田～大曲は所要時間が約30分ですが、この区間をフル新幹線にすると約15分と大幅な時間短縮効果が見込めます。これは九州新幹線も時間短縮効果が大きい区間だから鹿児島中央駅と新八代駅の区間を先行開業させたという理由があります。また秋田から15分も短縮できるとなると角館や盛岡など中距離移動でもバスや自家用車に対して優位に立ち乗客増が見込めるのではないのでしょうか。

何より帰省ラッシュや「大曲の花火」などのイベントでも、今以上に輸送力が上がり列車が増発できます。

3点目は、そのまま秋田新幹線(田沢湖線)を活用できるからです。九州新幹線の先行開業では鹿児島と博多を結ぶ主要ルートは新八代駅で特急と乗り換えが必要でした。しかし、すでにミニ新幹線がある秋田と東京は秋田と大曲を奥羽線(ミニ新幹線)からフル新幹線へ移行するだけで乗り換えなしで移動することができます。新幹線ホームの新設は必要かもしれませんが、煩わしい乗り換え用の設備を作らなくて済みます。

以上が私の意見です。ご参考になれば大変ありがたいです。

何かお役に立つのであれば喜んで協力いたします。

長々と文章だけになってしまい見苦しくなってしまったことをお詫び申し上げます。

ご検証、ご検討をよろしく願いいたします。

【南秋田郡八郎潟町・不明・男性】

テーマ5：地域医療構想について【0件】